

令和6年度 第2回学校運営協議会 報告

1 目的

今年度の学校経営計画に基づいた指導成果に係る中間報告をおこなう。委員の方々から本校の学校運営に関する御意見等を頂戴し、地域に開かれた特色ある学校づくりをより一層推進するとともに学校活性化のための方策について共に考え、本校教育の充実・発展に寄与する。

2 日時

令和6年10月7日（月）13:30～14:30

3 場所

本校中会議室

4 出席者

会 長 齋 藤 芳 里 様（二子町振興協議会専務）

副 会 長 佐 藤 満 義 様（北上工業クラブ会長）

委 員 高 橋 剛 様（北上市商工部長）

委 員 八重樫 博 之 様（岩手県建設業協会北上支部長）

委 員 菊 池 良 弥 様（北上市立上野中学校長）

委 員 菅 原 純 様（北上市立二子小学校長）

委 員 小 原 加奈枝 様（本校PTA会長）

〔 菅 原 浩 一 委員（北上地区電気工事業協同組合理事長兼本校同窓会長）及び
後 藤 則 夫 委員（本校前同窓会長）は所用により欠席 〕

【本校職員】

校 長 村 上 智 芳

副 校 長 植 木 淳

副 校 長 尾 形 祐 一

事 務 長 佐 藤 秀 司

総務主任 阿 部 正 孝

5 次第及び内容（要旨）

（1）開会

（2）会長挨拶

委員の皆様からたくさんの意見をいただき、本協議会を有意義なものとし、本校の発展につなげていきたい。

（3）学校長挨拶

今回は現在までの本校教育活動の中間報告を中心に開催する。今年度もインターハイや国民スポーツ大会において本校生徒が活躍した。また、部活動での活躍だけではなく、夏季休業中には「小学生ものづくり教室 in 黒工」で小学生にもものづくりの楽しさを体験させたり、授業（科目「課題研究」）では、近隣幼稚園の遊具修繕活動をおこない、本校の魅力発信をおこなっている。

来年度学力検査より本協議会でも協議した「いわて留学」を実施することになった。しかし県外中学生への周知の手段は学校HPや県教委作成のリーフレットのみであり浸透できていないのが現状である。そこで北上市の御協力により、一般財団法人地域・教育魅力化プラッ

トフォームによる「地域みらい留学」への参加を計画中である（本県の複数校が参加済）。このことにより東京や大阪で開催されている県外留学の紹介コーナーへ本校職員及び生徒の参加が可能となり、多くの中学生に本校の存在や学びを紹介できる機会となるだろう。本校へ入学し、学びをきっかけに本市企業に就職し、本市発展の良き人材となつてほしいと考えている。

(4) 議長選出

岩手県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則、第5条の2「会長は、会務を総理し、会議の議長となる」により斎藤会長を選出した。

(5) 協議

事務局及び委員より協議事項の提出はなかった。

(6) 報告

1) 今年度の教育活動（中間報告）

資料により以下の部・科より現在までの中間報告が行われた。

ア 総務部	イ 教務部	ウ 生徒指導部	エ 進路指導部
オ 厚生部	カ 図書・視聴覚部	キ 教育支援相談部	ク 情報管理部
ケ 工業科			

2) 部活動等大会結果

県高校総体以降の大会結果等について中間報告が行われた。

3) その他

本校生徒が掲載された新聞等から生徒の活躍について中間報告が行われた。

(7) 委員の皆様から（提言、指導・助言等）

【委員A】

今月末に「きたかみ・かねがさきテクノメッセ」が開催される。昨年度までは規模縮小による開催を強いられてきたが、今年度は通常開催で実施する。本校の参加協力に感謝している。

【委員B】

地域産業講座について、今以上に拡大開催し、地元中小企業の参加も検討してほしい。また本市には将来、半導体人材育成施設ができる。キャリア教育の充実の観点からも県ものづくり自動車産業振興室（も自室）と連携を図りながら、半導体製造に係る人材育成に尽力してほしい。

【委員C】

総務部より説明があった「保護者からの徴収金の比率変更」について具体的に説明いただきたい。

【総務主任】

あくまで素案として聞いていただきたい。

生徒数の減少に伴い、各種徴収金の残高額が例年より大きく減少している。特に特別教育活動振興費については今後の支出が悩ましい現状にある。一方では余裕ある会計も存在している。本校では6,800円/月の拠出を保護者をお願いしている。総額は変えずに各種会計への配分額を変更し、難局を乗り越えたいと考えている。改正案を作成し保護者へ提案したいと考えている。今後も生徒数減が現状どおり推移すると、将来は徴収額の改定も必要と考える。

【委員D】

SNSを起因とするいじめが発生している説明があったが、本校の情報モラル教育について説明いただきたい。また、要支援生徒へのサポートの現状について説明いただきたい。あと本校の学力向上の取り組みについて聞かせてほしい。

【副校長】

情報モラル教育については、科目「工業情報数理」（「情報Ⅰ」の代替科目）でおこなっている。また外部講師（県警察等）の講演により、小中学校での学びを深化させている。考える機会を設定しているものの追いついていない現状もある。その都度話していきたい。

要支援生徒のサポートに関して、県では特別支援相談支援員を配置し対応している。本校でも支援員配置を希望するものの配置されてはいない（小規模校を中心に配置）。本校では校務分掌に教育支援相談部を設け（5名体制）手厚い体制を整えている。

学力向上については大きな課題である。先日実施した調査からも本校生徒の家庭学習時間は短時間である。各教科と共有し、方策について検討したい。

【委員E】

「いわて留学」「地域みらい留学」について説明があった。希望生徒の住居についての説明をいただきたい。

【副校長】

市教委の御協力により相当数の住居（下宿、マンション等）が入居可能である。また市より留学生に対し経済的な援助をしていただくことになっている（「いわて留学」募集要項にも掲載済）。

【委員F】

他地域の高校生（既卒者）が就職し入社式にて、予定されていた就業先及び給与等の変更を言い渡されたそうだ。このような事案は他にもあるのか。

【副校長】

高校生の就職活動は職業安定所（ハローワーク）が仲介することが一般的である。職業安定所の指導により求人票が作成され、学校側（生徒、保護者、教職員）が閲覧し企業選定していくことになる。求人票は雇用側から採用予定者への「約束」であり、記載どおりの採用となるべきものとする。本校生徒の内定先は過去にも採用していただいている企業が多く、前述のような事例はないと思っている。

【委員A】

域内企業が求人活動をおこなう場合は必ず職業安定所を仲介する。入社後に雇用条件が変化することは考えられない。

【委員G】

登下校時の本校生徒の自転車乗車マナーを見ると、良いといえない生徒がいる。学校周辺は交通量も多く頻繁に指導が必要と思う。

小中学生に対し本校のアピールができる場において、卒業後の進路（将来何になれるのか等の未来につながる内容）については是非お話しいただきたい。

(8) その他

次回予告…来年2月に実施したい。

(9) 閉会